

1 日時

令和7年1月31日（金） 14:00～15:15

2 場所

呉市役所2階 202・203会議室

3 出席者

22名

- (1) 協議体委員（13名）：平林委員長，新田副委員長，古江委員，川畑委員，
香川委員，平川委員，兼田委員，宮下委員，花房委員，
島中委員，井川委員，加登委員，渡川委員
※各委員の所属は名簿参照
- (2) 呉市高齢者支援課（7名）：柏尾副部長，平西課長，矢村主幹，岩見課長補佐，
北恵専門員，磯本副主任，松田
- (3) 呉市社会福祉協議会（2名）：竹口係長，野崎

4 資料

資料1 呉市生活支援等サービス体制整備事業の取組について

参考資料1 呉市生活支援・介護予防サービス体制整備推進協議体設置要綱

参考資料2 呉市生活支援・介護予防サービス体制整備推進協議体設置名簿

参考資料3 呉市生活支援・介護予防サービス体制整備推進協議体席図

5 内容

- (1) 呉市生活支援等サービス体制整備事業の取組について

資料1

説明者：呉市社会福祉協議会 第1層生活支援コーディネーター 渡川委員

ア 概要

- (ア) 互助による生活支援の仕組みづくりを進めるため，協議体（住民主体の話し合いの場）をつくり，生活支援コーディネーター（以下，「SC」という。）が調整役を担う。
- (イ) 呉市では全国的にも珍しい第3層協議体からのボトムアップで住民主体の取組の活性化を図っている。協議体で話し合いを重ね，見守り合い活動や居場所づくり等，さまざまな住民主体の活動が創出している。
- (ウ) SCは，各地域で住民が買い物に関する不安ごとを抱えているという声を把握しており，呉市全体の共通課題であると認識している。この会議は，呉市全域の地域福祉を協議する役割があるとともに，必要に応じて地域ケア推進会議への上程や呉市行政へ政策提言をする機能を併せ持っている。そのため，本日の会議では，呉市における買い物支援の取組の拡大に向け，モデル地区（昭和地区・郷原

地区)を選定し調査を行った内容を振り返るとともに、調査をする中で浮かび上がった新たな課題(ごみ出しについて)についても委員の皆さまと一緒に考えたい。

イ 買い物支援について意見交換

- (ア) 平林委員長：買い物支援の取組の拡大に向け、モデル地区を選定し活動した報告があった。協議のポイントとして、所属している団体でこれから協力ができることや取り組み可能なこと、また、所属している団体だけでは取り組むことが難しいが、他の団体と連携することで実現ができる可能性があることについて協議していただきたい。協議の前に、報告の中であった、昨日の第21区民生委員児童委員協議会との買い物についての協議内容を共有していただきたい。
- (イ) 渡川委員：生協ひろしまの送迎サービスを利用できない人が増えたことにより車両台数を増やす計画を検討されているということ。また、生協の移動販売や宅配の共同購入のグループがあり、住民同士で重たい物は協力して家まで運んでいるといった現状を共有することができた。
- (ウ) 香川委員：以前もお伝えしているが、宮原地区で買い物支援の取組(電話注文し、自宅へ配達)を検討し、調査を実施したが、あまりニーズがなかった。
- (エ) 平林委員長：昭和地区は、COOPの送迎サービス用の車輛を増やす等検討していることもあり、今後、利用できる人も増える可能性がある。郷原地区についての状況を伺いたい。
- (オ) 渡川委員：郷原地区では、地元商店が一軒とJAの購買しかない。生協の宅配サービスを利用している世帯が多い中、現在は、株式会社フジの移動販売車が来ており、利用している人も多いと聞いている。また、金曜日のみ地元商店が様々な惣菜を販売し、希望者には配達もしているため、住民は助かっていると聞いている。しかし、地元商店やJAの購買、移動販売者の駐車場所まで行くことが難しいという声もあり、移動についても大きな課題である。
- (カ) 宮下委員：自分の目で見て買う物を決めたいという声をよく聞く。実際、介護保険での対応は時間の制約があるため、買い物の同行支援は難しい部分があり課題だと感じている。福祉施設と連携した買い物バスの取組は、住民にとって助かるものだと思うが、同じ店のみの往復になるため、別の店で食べ物以外の物も買いたいという高齢者も出てくると思う。また、坂の上に住んでいる人やバス停まで距離がある人、タクシーは費用が高いから使わない人もいるため、生協の配達や株式会社フジの移動販売、コンビニの配達が地域に出向くという話が年々増えている。しかし、業者もある程度の商品が売れないと訪問できない可能性があり、利用したい人と業者とをマッチングしなければならない。
- (キ) 加登委員：買い物支援サービスを提供する側が、今後もサービスを持続させるのであれば、どこが課題なのかをきちんと把握しなければいけないと思う。サービス提供側の意見を聞き、いろんな方法を試してみる等、もっと柔軟に動いてみたらいいのではないか。持続可能な活動にしていくためには、まずはやってみることが大事だと感じる。

(ク) 花房委員：ヘルパー事業所は、要介護認定がある方の買い物支援ができる。ヘルパーが同行して一緒に買い物に行くこともできるが、時間の制約もあり近くに店がないと一緒に行けないことがある。地域によって状況が異なるため、移動販売車が家の近くに来てくれるならいいが、難しいことも多い。継続したサービスを運営するためには、人材と提供内容とをコーディネートをする必要があると思う。住民参加型サービスを組織化し、コーディネーターを設置して運営する方法もあるが、呉市全体では難しいかもしれないため、地域が必要としている課題を整理し、その地域のやり方に合わせて話し合うことが必要ではないかと思う。

ウ ごみ出しについて意見交換

(ア) 古江委員：ごみ出しについては、とても大きな問題で、呉市が環境を整えることが重要である。0時以降に玄関前に出したごみを夜中に回収する取組を50年以上前から実施している自治体もある。高齢者が多い中、ゴミステーションが遠い自治会も多いと聞く。ごみ出しに関して、呉市行政に検討していただき、高齢者に優しいまちにしてほしい。

(イ) 平川委員：ワンコインサービスとして、30分程度で500円のサービスを実施しているが、実績が少ない状況である。現在、月2回の話し相手の依頼として、1世帯のみ利用している。ごみ出しのサービスについては、曜日ごとに決まっている週2回の燃えるごみ、週1回の不燃ごみのごみ出しをするといった定期的な対応も可能だと思う。過去に粗大ごみをゴミステーションまで出してほしいという要望があり、腕力のある会員が家具等を運んだこともある。

(ウ) 古江委員：民生委員は、住民から日常的に生活上の困りごと相談が入る。シルバー人材センターに連絡すれば早めに対応してもらえるのか。

→平川委員：各地区に十分会員がいるわけではなく、依頼場所の近くに会員がいない場合には、遠くに住む会員に了解を得て作業に向かっていただいている。すべての依頼を受けることは難しいが、まずはご連絡いただきたい。

(エ) 古江委員：住民が困ったときに、民生委員として良いサービスがあれば早めに紹介したいので、情報を早く知らせてほしい。また、シルバー人材センターがどんな依頼であれば受けていただけるのかも情報提供していただきたい。

→矢村主幹：現在、シルバー人材センターは中央地域に限り、総合事業の訪問型サービスBを実施している。対象者は、事業対象者や要支援1、2の方に限られているため、定期的にサービス計画に位置付けた人でないと利用していただけない。地域包括支援センターがケアプランの中に位置付けることで利用していただけるサービスであり、誰でも使えるサービスではないということをご承知いただきたい。

(オ) 香川委員：中学校や高校と連携し、登校するときにゴミステーションまで持って行ってもらうのはどうか。ごみ出しをきっかけに、高齢者等との交流もできる。若いときから、困りごとを地域の中で協力して解決することで、安心して生活できることを知ってもらえるのではないか。

(カ) 平林委員長：例えば、朝にウォーキングや犬の散歩をしている近所の方に依頼

する等できたらいいのではないか。

→古江委員：ウォーキングや犬の散歩は個人によって時間帯が違うため、難しいと感じる。

- (キ) 古江委員：福祉教育の一環として、学校を巻き込んでいくことは良い方法だと思う。
- (ク) 宮下委員：ごみ出しについて困っている方は特に多いと把握している。一人暮らしの高齢の方、中でも特に女性の方が多い。ごみ出しができる時間は地域によって異なり、時間の制約があるためヘルパーが対応できていない。実際に困っている方に話を聞くと、ご近所の方等が手伝ってくれているとおっしゃっていた。ご近所同士の支え合いを残しつつ、どう解決していくのかが課題であると思う。例えば、廃品回収を月1回やっている地域には、自治会内での活動に協力をしたいと希望する男性が多く、そういった方に週1回でもごみ出しサポートをしていただけると助かると思う。訪問型サービスBの制度についても、市民に向けての周知が必要ではないかと思う。
- (ケ) 宮下委員：ケアマネジャーとして、介護保険対象外の電球交換や季節家電を出してほしい等頼まれることがあるが、実際にどんなサービスが提供できるかと問われると難しい。地区ごとのニーズ把握調査であれば協力できるのではないかと思う。
- (コ) 川畑委員：坂の上に住んでいる家のごみ回収に行き、8時半までにゴミステーションに持って行くのは困難である。以前、自治会において、料金を払ってごみ出しをサポートする仕組みを検討したことがあるが、近所の方からお金をもらってまでサポートすることはどうかといった意見があり、実現に至らなかった。自治会に未加入で困っている人がいるかもしれないが、近所同士のつながりが薄いと近所の人はサポートできない状況がある。気心が知れた人同士であれば、気軽に手伝うことができる。
- (カ) 島中委員：見守り活動を実施している自治会が数箇所ある。日頃から、近所のちょっとしたことも、見過ごさないために活動されている。その中で、ごみ出しに困っているという声があると聞いている。また、自分の家を中心に、ゴミステーションの近くに住んでいる方のごみであれば善意で持って行ってあげられるが、わざわざ遠くに住んでいる方のごみを持っていくのは難しいという声が出ている。また、介護度が高い人よりも、要支援1、2といった介護度が低い人のほうが必要性を感じているという実態がある。
- (シ) 井川委員：老々介護に近い地域内の助け合いを例にあげると、93歳の女性が87歳の女性のごみ出しを手伝っており、地域の中での支えによって生活ができている。また、緩やかな見守り活動をしている自治会では、住民からの要望があればごみ出しはできると聞いたことがある。困っている人の手助けができるよう、地域の負担を配慮しながら、マッチングできる組織づくりができたらいいと思う。
- (ス) 兼田委員：商工会議所は、地域の中でどんな課題があるのか把握できていないため、何が支援できるか想像するのは難しい。しかし、できる範囲で協力していきたい。ごみは毎日出るものなので、行政を中心に考えていくことが必要ではな

いかと思う。

- (セ) 花房委員：ごみ出しでヘルパーを利用する場合、同一の朝の時間帯に集中すると、介護人材の不足があって対応ができないという現実がある。地域によってゴミステーションの管理方法が違い、ネットで覆うところもあるが、事前に出せるところもあり、ヘルパーが夕方に訪問して、前日にごみを出せるよう自治会長に頼んでいるケースもある。

エ その他

- (ア) 古江委員：日々高齢者と接触している中で、困りごとはたくさんあると感じている。しかし、すべての困りごとを解決することは難しいが、1つずつ解決に向けて話し合いを継続していきたい。今後の予定を伺いたい。
- (イ) 渡川委員：買い物については、第6地区と仁方地区の買い物支援の取組を参考に、引き続き昭和地区と郷原地区をモデルに動いていきたい。また、ごみ出し支援についても、買い物支援と併せて協議していきたいと考えている。
- (ウ) 川畑委員：昔は縁側で過ごす人が多く、調味料等の貸し借りがあり、つながりが強かった。今では縁側もなくなり、昔のような時代に戻ることは難しいが、安心して暮らせるように様々な団体が協力して考えることが大事である。
- (エ) 古江委員：今後も、具体的に動いていけるよう、民生委員としても協力するので、声を掛けていただきたい。

ウ まとめ

福祉施設と連携した買い物バスの実施拡大に向け、モデル地区（昭和地区・郷原地区）で継続して協議するとともに、呉市全域の課題であるごみ出し支援についても、買い物支援と併せて検討していく。

次回、経過報告を行う。